

いきいきゼミナール

健康
と
医療

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

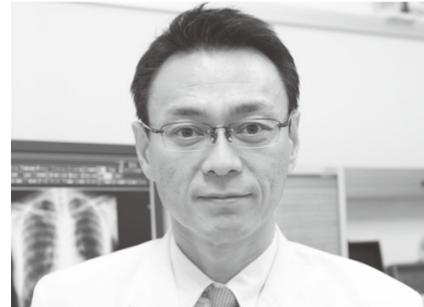
テーマ 「炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎とクローン病)」

ゲスト 福住内科クリニック 佐藤 康裕 副院長

—下痢が長く続いている場合、どのような病気が考えられますか。

下痢には「機能的」の原因と「炎症性」の原因があります。繰り返す下痢の原因として頻度が高いのは、ストレスなどによって腸の機能的な異常が生じる「過敏性腸症候群」です。腸に炎症は起こしておらず、血液検査や内視鏡検査でも正常で、入院や手術が必要になるほど重症化すること

はありません。一方、腸の炎症によって下痢や腹痛を起こす疾患を総称して「炎症性腸疾患」と呼んでいます。過敏性腸症候群と異なり、悪化すると血便、発熱、体重減少などをきたし、入院や手術が必要になることもあります。慢性的な下痢の要因となる炎症性腸疾患は「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」が代表です。いずれも免疫の異常で発症すると考え



られていますが、はっきりとした原因は明らかになっておらず、完全に治癒させることが難しいため厚生労働省から難病に指定されています。患者数が年々増加しており、まれな病気ではなくなってきています。

—潰瘍性大腸炎とクローン病について教えてください。

潰瘍性大腸炎は、大腸の粘膜に慢性的な炎症を起こし、粘膜がはがれたり(潰瘍)、ただれたり(びらん)します。粘液が混じった血便を伴うのが典型的です。重症化すると炎症は大腸全体に広がり、腹痛や血便が頻回になって入院治療を要することもあります。しかし、90%の患者さんは軽症・中等症で、適切な内服薬や座薬などによって外来で治療が可能です。炎症がおさまり症状が消失(寛解)しても、再び症状が発現(再燃)することが多く、寛解と再燃を繰り返すため、寛解期にも治療の継続が必要です。大腸がんを合併するリスクがあるため、定期的な内視鏡検査も必要です。

クローン病は、口から肛門まですべての消化管に炎症が起こりえます。症状は病変の部位によってさまざまですが、初期症状で多いのは下痢と腹痛です。痔ろうなどの肛門病変が多いのも特徴です。炎症を繰り返し、腸に狭窄をきたしたり、穴があいたりすると手術が必要になることもあります。生物学的製剤という薬剤の開発などにより、治療は進歩していますが、潰瘍性大腸炎と比べ症状は重いことが多いです。潰瘍性大腸炎同様、寛解と再燃を繰り返します。下痢や腹痛が続く場合、特に血便や発熱がみられる場合には専門医による検査をお勧めします。

病院
訪問

福住内科クリニック

高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病のほか、食道、胃、大腸、肝臓、胆のう、すい臓などの消化器疾患を専門的に診療。ピロリ菌専門外来、肝臓専門外来も開設しています。休日、夜間も診療しており、東豊線福住駅直結という立地で通院にも便利です。



▲外観



▲待合室

住所/札幌市豊平区福住2条1丁目2-5
イトーヨーカドー福住店5F
電話番号/011-836-3531
診療受付/月~金曜 9:30~12:30
14:00~19:30
土・日曜、祝日 9:30~17:00
休診日/不定期(年10日間)お問い合わせ下さい
院長/田中 浩

企画制作/北海道新聞社広告局